（様式①）

第４回かわにし市民会議　議事メモ

班	２班「子育て・教育の充実」
コーディネーター	石井　聡
ナビゲーター	宮崎　稔
説明担当者（自治体）	なし
日時	2019 年　8 月　24 日（土）13 時 00 分から 16 時 00 分
場所	川西市役所６階　議員協議会室
その他	参加者数 14 名

趣旨・概要

①　特色ある教育とは

総括

班発表者総括

　前回川西市には特色ある教育が少ないといった話があったが、偏った特色ではなく子ども一人ひとりの特色を伸ばしてあげることが一番大事だという話になった。個々の個性を伸ばしていく教育のシステム作りが必要である。

ナビゲーター総括

　自分の住んでいる街について語り合えることは幸せなこと。テーマは教育だったが、教育を地域とすることによりまちづくりとなる。単発ではなくトータルな施策を打ち出すことにより様々な問題を解決する可能性がある。行政がトップダウンですべきこともあるが、中身は市民のみなさんでつくっていくもの。民度の高い川西市になることを願っています。

協議の流れ

１　第２回市民会議振り返り

前回子育てについての話をしたので、今回は教育中心に。話が広がって子育ての話になるのは OK。ただし、話の糸口としては教育にしようということ。

２　教育（ナビゲーター　学校と地域の融合教育研究会会長　宮崎　稔氏より説明）

・「特色」というのは良いことではあるが、画一教育になりかねない。
　そこのところをよく考えていきたいというのが今日の主な提案。
　子どもにはいろんな特色があり、どの子どもの特色も生かされるような教育ができればそれが川西市の特色になるのではないか。

（千葉県習志野市の秋津小学校の実践例を VTR で視聴）

・ソフトボールクラブの人数が足りないが、大人が指導者ではなくクラブ員として参加。
　子どもはソフトボールができ、大人は運動不足解消になり、ウィンウィンの関係に。
・パソコンクラブに大人が指導者ではなく生徒として参加。

参）：市民参加者、コ）：コーディネーター、ナ）：ナビゲーター、市）：説明担当者

（様式①）

・学校を開放し、地域とのつながりの場に。
・子育ての悩み相談の場、高齢者の生きがいづくりの場、不登校の居場所など。
等、20 年以上前から実施されている地域とのつながりがわかる事例。

「教育」に問題があるのは単発な対応・対策だから。
　抜本的で、トータルな施策を実行することが大事。

①　取り組みの障害
参）地域のお母さん、お父さんたちがいろんなことをしていただいていたら、先生たちが何かをしたいと思ったときにやりにくくなったりはしないか。
ナ）例えばどんなイメージがあるか？
参）運動会で先生がこうしたいというのがあっても、地域の方からの圧力とかで思ったようにできないといったことはないか。
ナ）10 年が目安。始めたばかりのときは「いいぞいいぞ」というようなかんじでも、だんだんいろいろな思惑が出てきて、ボスが出現する。
先生をさておき地域の人が優先されてしまう状況が生まれたりする。
創成期はいいが、時がたつとあたりまえになり、いろんな要求がでてくる。
そういったことになることを理解したうえで進めていけたらいい。

②　状況の変化
参）24 年前と比べて今も変わっていないのか。もしくは人は考え方等変化しているのか。
ナ）教育の授業の中に地域、コミュニティティーチャーがかなり入るようになってきている。先生の数も減っているが、学習指導要領が変わったときなどに先生だけで対応できないときに地域のコミュニティティーチャーに頼んだりしている。
何かできる人がいる一方、やれなくてもいいとは言われても肩身が狭く生きにくくなっている人もいる。どう対応してどう解決していくか、大人の知恵が試されている。
コ）先ほどのビデオではどちらかというと放課後に地域の人と何かするというのが主だった。若い先生より地域の歴史に詳しいおじいさんを呼んで話をしてもらうことが増えたが、地域の話ができるから呼ばれるのであって、昨日退職して何の話も出来ないおじいさんが生きにくくなった、そんな意味合いだろうか。
ナ）そう。人によって出来ること、出来ないことがあるが、子どものために何ができるかを考えることで、町の一員として自分の存在を感じることができる。

③　費用と役員選定
参）・秋津小の取り組みの費用負担は誰がしているのか。
・ＰＴＡなどの役員選定で誰もなりたがらなかったときはどうするのか。
ナ）・初年度に 200 万ちょっと掛かった。シャッターをつくった。住民には正面玄関ではなく裏口の鍵を貸し出した。使えるフロアを限定して。次年度以降かかる経費は学

参）：市民参加者、コ）：コーディネーター、ナ）：ナビゲーター、市）：説明担当者

校負担で。

・信じられないかもしれないが、みんなが PTA の会長になりたがった。地域の人が PTA の仕事に専念できるようフォローしてくれた。PTA に地域社会を取り込んだ PTCA が生まれている地域・学校もある。

④行政のかかわり方

参）・先の回答にもあったがセキュリティ面が気になっていた。

・コミュニティがうまくいかないときなどに、行政介入はあるのか。

ナ）・建物のセキュリティは先ほど話したとおりで。校庭の草取りをしてくれる人がいて、それだけで校庭に侵入してくる不審者対策になっていた。

・行政主導のコミュニティスクールがいっぱいあるが形だけのものが多い。ぜひボトムアップ、地域からの発案で実施してほしい。助言ならいいが、行政主導は NG。ゆっくりでも住民主体がいいだろう。

⑤　市民の意識

参）隣に住んでる人もわからない世の中。みんなの意識改革をどのようにしていくべきか。

ナ）「子どものために」がキーワード。一度でもコミュニティ活動に参加があった人には絶対にまた声をかける。見てるだけのひとも関わらせてしまう。腰の重い人もあきらめずにいろんな人から声をかけ続けることが大切。

⑤　取り組みの継続性

参）24 年前の状況は今も続いているのか。
生徒も満足というのはアンケートとかでわかったのか。

ナ）15 年前くらいまでは変わらず続いていた。それ以後の情報はつかんでいない。
アンケートはとっていないが、毎朝校門に立ち、日々生徒に接し続け声を聞いていた。欠席も非常に少なかった。学校が楽しいと言う生徒が多かった。そういう状況からの判断にはなる。

参）みんなそんな熱心な校長先生だったらいいのにと素直に思った。自治会の回覧の情報が回ってくるが、ゲートボールなどを学校の校庭を開放してやることで一歩前へ進めるのではないかと思う。

ナ）先ほどのサークル活動なんかは公民館でやるものだが、まず学校でやってほしい。例えば家庭科の授業で、ボタン付けができない生徒がいっぱいいて、先生がひとりひとりゆっくり教える場合もある。地域の方がいっしょに教えてくれれば時間短縮にもなる。

コ）息子が小学校 5~6 年のときにミシンの授業があって、先生ひとりでは見きれないので母親何人かに頼んでいた。働いている母親に頼むのか、地域の人に頼むのかどうかの違いで、似ているようで大きな違いだと思う。
まだ学校に行っていない子どもや親が地域の学校をどんな雰囲気か知らないというこ

とがあり、誰でも授業参観に参加できる期間を設けたりしている自治体もある。

ナ）前回までで川西市は遊び場が少ないといった意見があったが、学校が一番安全な遊び場。もしケガをしても自己責任で学校の責任にしないという確約のもと、学校で遊んでいいということで開放していた。

参）宮崎さんの熱い思いがあって実現できたのだと思う。校長先生やそのときの先生の熱によって差があるのは不安。そのような場合にもうまく取り組めることが長期的に大切だと思う。もしうまくいかない場合はどのように解決していけばよいのか。
自治会とかに入っていない人は情報をどうやって得ればよいのか。

ナ）大阪市住吉区に大空小学校という学校がある。文科省の映画となった小学校である。秋津小学校をモチーフにそれ以上の学校をつくっている。
「教育は人なり」という言葉がある。しかし、そうなってはいけない。私は「教育はシステムなり」と思う。ある程度までのシステムは必要。誰が校長になっても変わらないシステムをつくるのが大事。
情報伝達については、地域の回覧板、学校の前の掲示板に張り出すといったくらいだったと思う。

参）小学校のときにスポーツ２１で地域のおじいちゃんおばあちゃんに卓球を教えてもらいとても感謝している。当時は意識していなかったが、小学校と地域のつながりを強くするにはどのような取り組みがあるか気になった。

⑥川西の教育の特色を考えるにあたって

コ）秋津小いいなぁではなく、少しでも自分の地域でできるものがないかなど、皆さん考えるところがないだろうか。

参）川西市の教育モデルを考えるにあたって、地域の特色ある教育を調べてみた。例えば千代田区麹町中学校。そこの校長が行った改革は大きく 3 つ。①担任制廃止、②定期テスト廃止・教科ごとの単元テスト、③みんながみんな仲良くする必要はない、ということ。効果としては、①先生一人一人が生徒の指導者としての自覚を持った、②生徒が自主的に勉強し学力の底上げとなった、③生徒同士でトラブルがあった時に生徒たちに解決策を考えさせた。
教育要領などを守ったうえで、オリジナルのアプローチを加えた事例だと思う。川西に合った教育モデルというのを市民・行政で考えていくことが必要と思う。
全国的に公立の中高一貫校がある。市と県が連携して、中高一貫校をつくってはどうか。例えば緑台中学・高校を一貫校にしてみるとか。いろんなアプローチを考えてはどうか。

コ）先進的なものを取り入れれば「ならでは」になるが大変。制度などにあらわれる「ならでは」、なんとなくその街が持つ雰囲気の「ならでは」がある。

ナ）子どもに秋津小のいやなところはあるのか聞いてみたことがある。見られすぎていやだと言った。子どもからすると、いつも大人から見られている。そういうところは配慮してあげないといけないと思った。

参）：市民参加者、コ）：コーディネーター、ナ）：ナビゲーター、市）：説明担当者

指導力とは、中身を教える力ではなくコーディネート力。地域と学校を結び付けるコーディネート力。
子ども一人ひとりの特色を活かすことができるということを川西市の特色にすればよいのではないかと思う。

参）そもそも特色はいるのかという疑問がある。教員の負担などを考えると変える必要があるのかと思う。より良くするための抜本的な改革には、まず問題点の洗い出しが大事。ただ、その問題点は誰がわかるのか。子どもは自分が感じることがすべてなので、何が原因でそうなるかまでは考えられない。先生も生徒の悩みをすべて把握できているわけではない。どうしたらよいのかと思う。

参）昔は先生を尊敬していたと思う。今はそんな感じではないのではないかと思う。
もっと先生を大事にするシステムがあれば。

コ）抜本的な改革をするためには問題の洗い出しが必要かもしれないが、それをしている間に自分の子が卒業してしまうかもしれない。１０年後の学校より明日の学校を良くするほうが大事かもしれない。あるいは両方一度にしなければいけないかもしれない。

参）そもそもなぜ学校に行かなければいけないか。目的を意識して改革していく必要があるように思う。

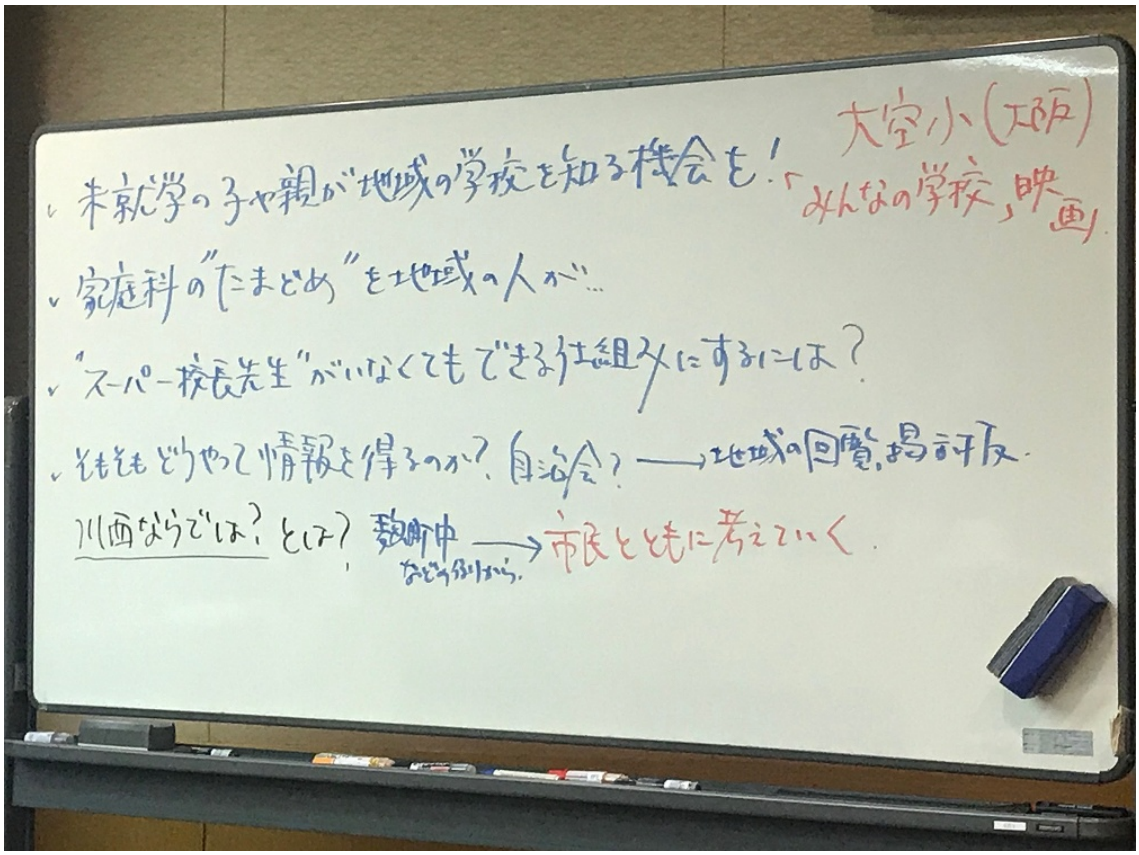
参）教育はおしえてもらうもの、学習は自ら学ぶものだと思っている。

ナ）秋津小では、先生に言いたいことがあるならストレートに先生に言わないでとお願いした。校長なり教頭に言ってくれと。保護者対教師にならないようにした。
学校になぜ行くのか、私はみんなで生きていくためだと思っていた。ただ最近は社会性がなくても生きていける時代になっている。誰とも関わらずに生きていくこともできる。だが自己実現の欲求が人間にはある。自分でこれを学びたい、これをしたいなどの気持ちを持ってほしい。学校にはなぜ行くのか。大人としてそういった気持ちを子どもたちに持ってもらうことが大事だと思う。

参）：市民参加者、コ）：コーディネーター、ナ）：ナビゲーター、市）：説明担当者

（様式①）

ホワイドボードの写真



参）：市民参加者、コ）：コーディネーター、ナ）：ナビゲーター、市）：説明担当者